

企画総務委員会 送付27-8

JR 御茶ノ水駅整備事業の2階店舗設置による、危険なホームの建設変更を求める陳情

受付年月日 平成27年9月28日

陳情書

<趣旨>

中央線御茶ノ水駅において、バリアフリー整備、耐震対策及び駅構内の混雑緩和を目的とした改良工事が進められています。

7月27日(月)の建築計画の説明会で、東日本旅客鉄道株式会社(JR東日本)が当初の目的とは乖離した、ホームの上を2階建てとし、2階部分に店舗等(コミュニティステーション)を企画しているとの説明がありました。ホームが狭隘で拡張するスペースの確保が困難といわれている御茶ノ水駅ホームは、当計画により鉄骨の柱(現在25cm-35cm角)は、1メートル角になり、高齢者や障害をもつ方たちだけでなく健常者にとっても危険な駅になります。

「バリアフリー新法」とは、高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律です。また、施設や製品等について新しいバリアが生じないよう誰にとっても利用しやすいデザインにするというユニバーサルデザインの浸透を踏まえた「バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進要綱」がすでに制定されています。JR東日本の計画は、計画策定にあたっては、高齢者障害者等の計画段階からの協力を得て経路の一体的な整備を推進する、という基本方針に沿っているとは思えません。エレベーター1台、エスカレーター2台を設置し、将来的にホームドアを設置する予定とのことであるが、狭隘で、乗り換え乗降客の多い当ホームに、それら設備のほかに鉄骨1メートル角の柱が立ち並ぶという「バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進要綱」とはかけ離れた内容の計画です。

茗溪通り会は、千代田区が主催する「駿河台地域まちづくり協議会」において、JR東日本の利益を最優先とし、地元の商圈にとり不利益かつ危険な駅舎建設には一貫して反対の意向であることを発言してきました。

御茶ノ水は、大学病院や総合病院の日本大学、順天堂大学、東京医科歯科大学他、杏雲堂病院、神尾記念病院、三楽病院、浜田病院、井上眼科病院などの規模の大きな単科病院が集積する特殊な駅です。一日2万人以上となる病院に通院する人たちへの配慮もなく、進められている建築計画を変更し、地域の実情にあった駅舎計画を再考することを求めます。